銅鏡　唐草鴛鴦文様　一面

【所　在　地】志布志市志布志町安楽 1519 － 2　山宮神社
【種　　別】国指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】大正７年４月８日

直径 22.12cm，平安時代後期の作である。菊座鈕単圏で，内区には２羽の鴛鴦を対置させ，瑞花文の唐草を直交して配している。外区には雲形と蝶，瑞花文を描く。これらの文様は極細彫りで，日本的な簡潔さの中に優麗典雅な趣をもつすぐれたデザインとなっている。このように文様が内・外区に分れ，さらにこれが４つの部分に区分されているのは，唐鏡の影響を受けたものといえるが，双鳥が鳳凰のような想像上の動物から鴛鴦という現実の動物にかわり，かつ動的に表現されていることは，和様化の傾向を示すものといえる。